

## Amir Tsarfati 師 「次の神殿」

2018年 7月 23日公開

(2018年7月22日 オーストラリア カルバリーチャペル・シークレットハーバー (パース) にて講演)

今夜、私たちがこうして集まっている間、物凄い数のイスラエル人たちが、断食して、祈って、失われた二つの神殿のことで嘆き悲しみ、衣を引き裂いています。

- ① 一つ目は、B.C. 586年、バビロンの王ネブカデネザルによって滅ぼされ、
- ② 二つ目は、A.D. 70年にティトス・ウェスパシアヌスによって滅ぼされました。



Figure 1 イタリア・ローマにあるティトウス凱旋門のレリーフ。エルサレム神殿から

この、アブの月の第9日という、特定の日にまつわる惨事は他にもたくさんありますが、その中のいくつかは、ユダヤ人たちのイギリス追放や、ユダヤ人たちのスペイン追放その他で、皆さんもご存知でしょう。非常に興味深いのが、私が読んだ解説書の一つは、ユダヤの文献のいくつかには、メシアがまさにその日に生まれたと書かれている、と伝えています。面白いのは、ユダヤの文献が、メシアがその日に生まれたと告げているということは、彼が、すでに来られたことを意味します。興味深いですね！

ただ、私たちが忘れてはならないのは、ユダヤ人たちは、人が作った神殿のことで嘆いている、ということです。彼らが現在、嘆き、断食し、自分たち自身を傷めつけているのは、明らかに神のものではないものに関してです。

よく考えてみてください。ユダヤ人たちが言っているのは、

「メシアが来て、神殿が再建されると、その日は、歓喜、喜びと祝いの日となる。」

つまり、来たるメシアと、神殿建設に対する期待があるのです。そこで想像ですが、—— 偽のメシアが現れて、偽の神殿がもたらされると、その次に何が起こるのかを知らず、彼らが一年のその日を祝う様子が、目に浮かんでくるのです。

ですから私にとっては、アブの月の第9日の悲劇は、神殿の崩壊ではなく、神殿の崩壊のことで嘆いている人々と、彼らには、もう既に来られ、唯一私たちに必要な方である真のメシアが見えていないことです。

創世記の一番初めから、神は、その民のただ中に住むことを望まれました。

これは、創世記で、罪が犯された直後に見られます。聖書は、創世記3章8節でこう告げています。

8 そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である主の声を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。

(創世記 3:8)

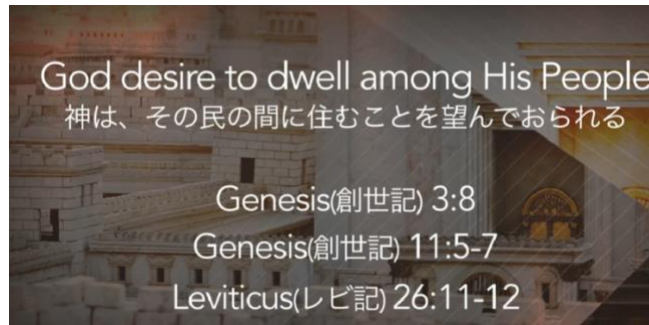
神は、人の中に住みたいと望まれたのです。

神は、人の中に臨在したいと望んでおられました。

神は、彼らが罪を犯すことはご存知でした。

それでも、神は来て、園を歩かれました。しかし、罪が恥と罪悪感をもたらしたため、彼らは隠れていました。つまり、彼らの罪、彼らの恥、彼らの罪悪感のために、彼らは隠れたのであって、神が、彼らと交わりたくなかったではありません。

興味深いことに、同じことが創世記 11 章 5～7 節でも見られます。



5 そのとき主は人間の建てた町と塔をご覧になるために降りて来られた。

6 主は仰せになった。「彼らがみな、一つの民、一つのことばで、このようなことをし始めたのなら、…」

(創世記 11:5～6a)

神は、言われます。

「見よ、人が初めて方々から一箇所に集まって来て、真っ先に行なうのは、わたしの場所を乗っ取ろうとして塔を建てることだ。」

しかし神は、再び降りて来られました。このように、人の間に住みたいという、神の願いがご覧いただけるでしょう。

それはまた、レビ記 26 章 12 節でも、同じように主が言っておられます。

11 わたしはあなたがたの間にわたしの住まいを建てよう。わたしはあなたがたを忌みきらわない。

12 わたしはあなたがたの間を歩もう。わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。

(レビ記 26:11～12)

このように神は、その民の間を歩きたいと願っておられ、

神は、その民の間に住みたいと願っておられ、

神は、その民の賛美の中に住みたいと思っておられます。

そして問題は、神でなく、問題は常に私たちです。

非常に興味深いのは、ユダヤ人たちは聖書をギリシャ語に訳していて、それは「タルグーム」と呼ばれます。



そして、創世記3章8節のギリシャ語訳では、そのギリシャ語がどのように伝えているかご覧ください。(上図参照)  
面白いと思いませんか？ヘブル語で、「メムラ」は「ことば」です。ですから、彼らは、園を歩いておられる神のことばを聞いたのです。

驚きじゃないですか？ヨハネ1章1～3節、14～15節によれば、神のことばとは、誰ですか？このように、イエスは、一番初めからおられたのです。

皆さん、理解しておいてください。

神が世界を創られた時、光がありました。

それは、太陽や月や星の光ではあり得ません。それらは4日目に創られたのですから。

実際、神は「光があれ」と言われ、光を創られたのではありません。光はそこにありました。神の光は、そこにありました。メシアは、世の基が据えられる前からおられたのです。

彼（イエス）が神の光であり、彼が神のことばであり、彼が園を歩かれたのです！

その同じメシアが、幕屋でモーセの前に立っておられました。

人が自分の友と語るように、顔と顔を合わせてモーセに語られた、と聖書にはあります。モーセは、神を見て、顔と顔を合わせて、神と語りました。

しかし、御父は、顔をお見せにならないことを、私たちは知っています。

では、私たちと一緒に座って、私たちのことを「わたしの友」と呼ばれたのは、誰ですか？このように、それは至るところで見られます。

そして神が、イスラエルの民をエジプトから連れ出された時、神は最も驚くべき形で彼らを導かれました。

考えてみてください。150万人の人々が、あの国の外を歩いていたのです。多くの学者たちが、「そんな短期間で、A地点からB地点へ行くなど有り得ない」と言っているのも知っています。「海が分かれるのはあり得ても、彼らがA地点からB地点まで歩くのはあり得ない！」と。

聖書には、神が彼らを「鷺の翼に乗せた」と書かれています（書記注：出エジプト記19章4節参照）。この意味が分かりますか？これはつまり、私たちの言葉で言えば、

「彼らは、その後渡る紅海のそばまで、まるで飛ぶようにして行った」

という意味です。すごいですね！

そして、海が分かれます。このように、神が、いたる所におられます。しかし、人々がした事と言えば、文句を言い、愚痴るばかりでした。めちゃくちゃです。私は、モーセのことを考えていたのですが、もし私がモーセだったら、私は精神病院に行っていたと思います！彼が対処しなければならなかったことを、考えてみてください。いつもいつも文句ばかり

です。ところが、神は、それでもまだ  
「わたしは、あなたがたの間に住まう」  
と言われました。

「わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民だ。」  
と。これは、ラブストーリーですよ！

「聞きなさい。わたしたちの最高の時は、ここ、荒野での時間だ。わたしがあなたがたに与える地に、一旦あなたがたが入れば、あなたがたはこれら全てを忘れてしまうだろう。今が、最高の時だ。あなたがたが完全に、100%わたしに頼っている時、わたしたちの関係の中でも、わたしは、この時期を覚えておこう。」

それから、次に見るのは幕屋です。

ちなみに、この写真は私が撮りました。と言っても、私が当時生きていたワケではなく、これは幕屋の複製です。皆さんはこれを幕屋と呼びますが、私たちは違います。



ヘブル語の名前は、「会見の天幕」です。「オヘル・ノエド/会見の天幕」

神が、私たちと会いたいと願われます。今が、わたしたちの時だ、と。そして神には、この特定のことにさえも、素晴らしい計画がありました。

それから、最も驚くべき事が起こります。悲劇ではありますが、それでいて、聖書全体の中で、最も素晴らしい章です。これは、わたしの人生の聖句と言っても良いくらいです！出エジプト記 33 章。

- 7 モーセはいつも天幕を取り、自分のためにこれを宿営の外の、宿営から離れた所に張り、そしてこれを会見の天幕と呼んでいた。だれでも主に伺いを立てる者は、宿営の外にある会見の天幕に行くのであった。
- 8 モーセがこの天幕に出て行くときは、民はみな立ち上がり、おのおの自分の天幕の入り口に立って、モーセが天幕に入るまで、彼を見守った。
- 9 モーセが天幕に入ると、雲の柱が降りて来て、天幕の入り口に立った。主はモーセと語られた。

(出エジプト記 33:7~9)

モーセが入ると、皆は見守り、一旦彼が中に入ると、雲の柱が立っているのです。それから、聖書にはこうあります。

- 10 民は、みな、天幕の入り口に雲の柱が立つのを見た。民はみな立って、おのおの自分の天幕の入り口で伏し拝んだ。
- 11 主は、人が自分の友と語るように、顔と顔を合わせてモーセに語られた。

(出エジプト記 33:10~11a)

感動しませんか？これは、イエスです！

旧約聖書の中のイエス？これもまた、書き留めておいてください。これも、その一つです。神の顕現であられるイエスで

す。それから、これを見てください。

11 …モーセが宿営に帰ると、彼の従者でヌンの子ヨシュアという若者が幕屋を離れないでいた。

12 さて、モーセは主に申し上げた。

(出エジプト記 33:11b~12a)

ここを見てください。モーセは、この時点で非常に悲しんでいました。

彼は、この1章半前で起こった、金の子牛の件で悲しんでいたのです。

彼は、あの山の上で40日を過ごしました。

それなのに、同じものを得るために、また戻らなければならなかったのです。

そして彼は、非常に腹を立てていました。

彼の兄弟（アロン）がそれを止めなかったことに、それから、神がしてくださった、全ての素晴らしい御業を見ていながら、まだあの金の子牛を拝んでいた国に対して。ところで、エジプトの文化の中で、金の子牛とは「アピス」と呼ばれ、アピスとは、神々と人間との仲介者でした。

面白いと思いませんか？彼らは、私たちと神の間を仲介してくださる方が、まさにそこにいるのに、また別の仲介者を拝んでいたのです。それから面白いことに、モーセが、主にこのように言っています。

「ご覧ください！」

ヘブル語が浮かんできます。



Figure 2 アピス

12 「ご覧ください。あなたは私に、『この民を連れて上れ』と仰せになります。しかし、だれを私といっしょに遣わすかを知らせてくださいません。しかも、あなたご自身で、『わたしは、あなたを名ざして選び出した。あなたは特にわたしの心にかなっている』と仰せになりました。

(出エジプト記 33:12b)

…これらは素晴らしいお言葉ですが、私には、あなたが必要です！「今、もしも…」この出エジプト記 33章 13節は、私の人生の聖句です。

13 今、もしも、私があなたのお心にかなっているのでしたら、どうか、あなたの道を教えてください。そうすれば、私はあなたを知ることができ、あなたのお心にかなうようになれるでしょう。この国民があなたの民であることをお心に留めてください。」

(出エジプト記 33:13)

彼らは、私の民ではありません！あなたが、彼らを選ばれたのです！

私は、妻と義父と一緒に人生を楽しんでいたのに、あなたが私を呼び出したのです！

そして、このゴタゴタです！

「彼らはあなたのお心だ」とあなたが私に言ったのです！

「彼らをエジプトから連れ出せ」とあなたが私に言ったのです！

彼らは、あなたの問題です！

#### 14 すると主は仰せられた。

(出エジプト記 33:14a)

ここ、見てください。

ところで、神は、このような会話が大好きですよ？

なぜかというと、私たちが主の御前に出て、

「主よ。これは、あなたの約束です！」

と神に思い出させる時というのは、私たちが、神の約束の上に立っている時ですから。

神は、気分を害したりはしません。

神の御前に出て、神が一度も言っておられない事、していない事、神の御言葉ではない事を、ブツブツと祈り始めるなら別ですが。

しかし、モーセは、

「あなたが言ったのです！あなたが約束してくださったのです！」

と言いました。

そして、それに対する神の答えを見てください。

#### 14 …「わたし自身がいっしょに行って、あなたを休ませよう。」

(出エジプト記 33:14b)

つまり、神はモーセに「あなたには睡眠が必要だ」と言われたのでしょう。(笑)

それから、モーセはこのように言っています。

#### 15 それでモーセは申し上げた。「もし、あなたご自身がいっしょにおいでにならないなら、私たちをここから上らせないでください。」

(出エジプト記 33:15)

もし、あなたがここから私を導き出してくださらないなら、私は行きたくありません。ここに留まります。

「それが、あなたでないなら、私は動きません！」

とあなたが主に言うなら、神の耳には、それ以上に嬉しいことはないでしょう。

これは何も、悪い言葉を語っているのではありません。これは、最高の言葉ですよ。

「あなたが私を導いてくださるまでは、私は動きません！」

これが、皆さんがすべきことです！

皆さんの人生の全ての場面でどうして良いか分からない時、あなたも神に対して、このように語るべきです。

「もしこれが、あなたでないなら、私は動きません！」

そしてモーセには、それを大胆に語る根性があつたのです。

「もし、あなたご自身がいっしょにおいでにならないなら、私たちをここから上らせないでください。」

#### 16 私とあなたの民とが、あなたのお心にかなっていることは、いったい何によって知られるのでしょうか。それは、あなたが私たちといっしょにおいでになって、私とあなたの民が、地上のすべての民と区別されることによるのではないのでしょうか。」

(出エジプト記 33:16)

モーセは言います。

「唯一、私たちを他の全世界と区別するのは、あなたが私たちと一緒におられることです。」

「あなたが、私たちを選ばれ、私たちを導きたかったのは、あなたです。あなたがそれを行われるまで、私は動きません！」  
ワーオ！なんと！

17 主はモーセに仰せられた。「あなたの言ったそのことも、わたしはしよう。あなたはわたしの心にかない、あなたを名ざして選び出したのだから。」

(出エジプト記 33:17)

神は、モーセに思い出させます。

「疑うな！あなたは、わたしの心にならなっているのだ。わたしがあなたを名ざして呼んだのだ。一瞬たりとも、疑ってはいけない。」

18 すると、モーセは言った。「どうか、あなたの栄光を私に見せてください。」

19 主は仰せられた。「わたし自身、わたしのあらゆる善をあなたの前に通らせ、主の名で、あなたの前に宣言しよう。  
わたしは、恵もうと思う者を恵み、あわれもうと思う者をあわれむ。」

20 また仰せられた。「あなたはわたしの顔を見ることはできない。人はわたしを見て、なお生きていることは出来ないからである。」

(出エジプト記 33:18~20)

これは、御父が語っておられることです。

この前に、彼がイエスを見たのであって、誰も、御父の顔を見ることは出来ないことが、ここで分かります。

21 また主は仰せられた。「見よ。わたしのかたわらに一つの場所がある。あなたは岩の上に立て。

22 わたしの栄光が通り過ぎるときには、わたしはあなたを岩の裂け目に入れ、わたしが通り過ぎるまで、この手であなたをおおっておこう。

23 わたしが手をのけたら、あなたはわたしのうしろを見るであろうが、わたしの顔は決して見られない。」

(出エジプト記 33:21~23)

これが、神が皆さんとしたいと願っておられることです。あなたと共に住み、あなたを導き、あなたに語りかける。

ところで、「Way/道」という名のナビがあるのをご存知ですか？

ダビデは、

4 主よ。あなたの道を私に知らせ、あなたの小道を私に教えてください。

(詩篇 25:4)

と言いましたね。ダビデはどこへ行っても、神に聞きました。

「神よ。私はこれをするべきですか？」

すると神は言われます。

「違う。」

「私は、左に曲がるべきでしょうか？」



「いや、右に曲がれ。」

まさに文字通り、カーナビのように、個人的で親密な関係です。

「私は、何色の車を買うべきでしょうか？」

というのとは違います。

これは、主に仕え、主の仕事をするための、実戦的な方法です。

## 8 彼らがわたしのために聖所を造るなら、わたしは彼らの中に住む。

(出エジプト記 25:8)

これが、神が望んでおられることです。私たちの中に住む。



それから出エジプト記 26 章、そして先ほど読んだ出エジプト記 33 章。

これを、神は望んでおられるのです。

これを、神は望んでおられるのです。

それからこれが終わり、第一神殿が建ちました。大違いです。

まるで、安いモーテルか何かから、トランプ・ホテルにでも行ったような？

突然、金ピカです。これ、見てください。



皆さん、イスラエルは既に強く、神はその望みどおり、ダビデを王とされました。ダビデは、サウルと違って、神の御心になつた人でした。

それからダビデが死に、ソロモンが王となって、ソロモンはこの 21 階の高さの建物を建てました。彼が建てたものは非常に巨大で、恐らく、当時世界最大の建造物だったでしょう。だからシェバの女王が、この驚くべきものを見に来たのです。彼はその全てを金で飾り、彼に与えられたレバノンの杉と石灰岩で造りました。聖書には、石灰岩が二列と杉の木が一行であったとあります。木は、地面が揺れた時にそれを支えるためです。

ところで、今日もまた地震がありました。



そうしてあの神殿が、あそこに建っていました。第二サムエル記7章には、神殿がどのようにもたらされたかが書かれています。しかしそれには、ダビデが契約の箱をエルサレムに持って行くことがまず初めでした。会見の天幕がエルサレムにあったことは、一度も、一日たりともありませんでした。会見の天幕は、シロに留まっていた。

それから、覚えていらっしゃるでしょうか？契約の箱は、ペリシテ人の手に陥り、そしてペリシテ人は、それをベテ・シエメシュに返しました。そしてそこから、はるばるキルヤテ・エアリムのアビナタブの家に運ばれました。ダビデは初め、それをエルサレムに持って行こうとして失敗し、二度目、成功した時には、契約の箱の前で踊り、最終的には、彼がエルサレムに持って来ました。それでもあそこには、まだ神殿は建っていませんでした。彼が契約の箱を持って来て、彼には主との約束がありました。

それから主は言われました。

「あなたは、わたしのための家を建てる事は出来ない。しかし、あなたの息子には、それが出来る。」（書記注：第一列王記5:3、第一歴代誌22:8、28:3参照）

それが、第一列王記6章に書かれています。

ソロモン王について、それから神殿建設について、6章に確かに書かれています。

実に見事な建築です。

そしてそれは、当時建っていた神殿の中で、像が一切ない、唯一の神殿でした。全くありませんでした。実際、人々は三つの奇跡、驚くべき事を見るために、その地を訪れたものでした。だれもが浮かぶ海、人々が何もしない日、それと、像が一切ない神殿です。当時、そのようなものは、誰も聞いたことがありませんでした。ただ、問題は、時に私たちは美しい建物を建て、それを金や銀で飾りながらも、それが後には、建築が全て、建物が全てとなってしまうことがあります。しかし、神の家とは、人々です。

それが多くの場合、私たちは神を礼拝することが慣習となり、やがては、それがただの儀式となってしまうがちです。個人的な関係は、窓から抜け出してしまっ、私たちは神を知りもしません。私たちはただ、出かけて行って、するべき事をします。それをしなければならぬから。そして人々は、神を礼拝し始め、物事を行い始めますが、徐々にポリティカルコレクトが入り込み、そして、他の神々や、他の神に代わるものの悪い影響が神殿の中に潜り込みます。そこには欺きがあり、異教の神々への礼拝が、エルサレムの神の家を侵略しました。



エゼキエル書の中で、8章以降、9章、10章と、人々が他の神々を拝み、女たちはタンムズを拝んでいるのが見られます。毎年、出て来て死に、復活する、完全にバビロンの神々です。そして、彼らは創造主ではなく、被造物である太陽を拝みました。とんでもないことです。それも、どこででしょう？彼らがそれを家の中で行っていたなら、まだ別だったでしょう。ところが、エルサレムの神殿でした！しかもそれは、大祭司とレビ族の先導の下、行われていました。彼らは、この全貌の片棒を担ぎ、自分たちが違法の神々を礼拝しているとは、一瞬たりとも考えませんでした。

多くの教会で、地上のもの、この世のものが少しずつ浸透しているのを、私は目にしています。そして、気がつけば、教会の礼拝が娯楽ショーになっています。

だれも、神すら知らない、聖書は使われもせず、あなたは巨大なスタジアムに座って、礼拝は大きなショー、大きなプロダクション、それが全てになってしまっている。

神殿はエルサレムに建っていました。

しかし神は、神殿の中にはおられませんでした。聖書には、神の御霊が、初め最も聖なるところから聖所へ移動し…、それから中庭へ、そして門へ移動して、東側に立っていた山、つまりオリーブ山へ離れて行った、と書かれています。考えてみてください。

神は、神の家にはおられなかった。

しかし彼らは、毎日礼拝しにやって来て、毎日さげ物を携えてやって来ました。彼らは、神がそこにいないという事すら、知らなかったのでしょうか。そもそも神を知らなかった。神の家に行きながら、そこに神はおらず、その事すら知らないとは、何と悲しいことでしょうか！

これは、多くの教会の図で、オーストラリアでも同様です。それは、大きな教会にも有り得ます。

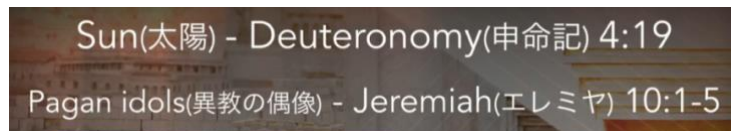
時に、賛美は素晴らしい。スモークやテクニク、スゴイ事の数々。

アメリカにも、こういった所が沢山あります。

ところで、神は、私たちが太陽や他の異国の偶像を拝むことを禁じておられます。申命記 4 章 19 節。神は、人がどんな事をするか、はっきりとご存知ですから。

19 また、天に目を上げて、日、月、星の天の万象を見るとき、魅せられてそれらを拝み、それらに仕えないようにしなさい。それらのものは、あなたの神、主が全天下の国々の民に分け与えられたものである。

(申命記 4:19)



神は、ご存知でした。そして、これら神殿にいた人々、神の御言葉を知っている人々、これをよく知っているはずの人々が、まさに、神が禁じた通り、拝み始めました。

エレミヤ書 10 章の初めの数節で、他の神々を拝む事について、エレミヤ自身がイスラエルの民に言っています。

- 1 イスラエルの家よ。主があなたがたに語られたことばを聞け。
- 2 主はこう仰せられる。  
「異邦人の道を見習うな。天のしるしにおののくな。異邦人がそれらにおののいても。
- 3 国々の民のならわしはむなしからだ。それは、林から切り出された木、木工が、なたで造った物にすぎない。
- 4 それは銀と金で飾られ、釘や、槌で、動かないように打ちつけられる。
- 5 それは、きゅうり畑のかかしのようで、ものも言えず、歩けないので、いちいち運んでやらなければならない。そんな物を恐れるな。わざわざいも幸いも下せないからだ。」

(エレミヤ書 10:1~5)

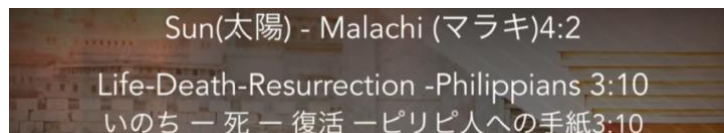


Figure 3 きゅうり畑のかかし！？

こういった物を、拝んではいけない。

太陽とは、マラキ書 4 章 2 節で、イエスが義の太陽であり、翼です。

確かに、聖書には…皆さんは、まるで私がとんでもない冒涇をしているかのような目で見ておられますが、——では、マラキ書を開いてください。皆さんは(英語で)「マラカイ」と呼ばれますが、どちらかと言えば「マラチ」です。



4 章を開いてその 2 節に、メシアについて何と書いてあるかを見てください。用意は良いですか？ここに書いてあることをご覧ください。2 節です。

- 1 見よ。その日が来る。かまどのように燃えながら。その日、すべて高ぶる者、すべて悪を行う者は、わらとなる。来ようとしているその日は、彼らを焼き尽くし、根も枝も残さない。  
——万軍の主は仰せられる——
- 2 しかし、わたしの名を恐れるあなたがたには、義の太陽が上り、その翼には、いやしがある。あなたがたは外に出て、牛舎の子牛のようにね回る。

(マラキ書 4:1~2)

これがメシアです。義の太陽。

興味深いと思いませんか？その翼には、癒しがある。

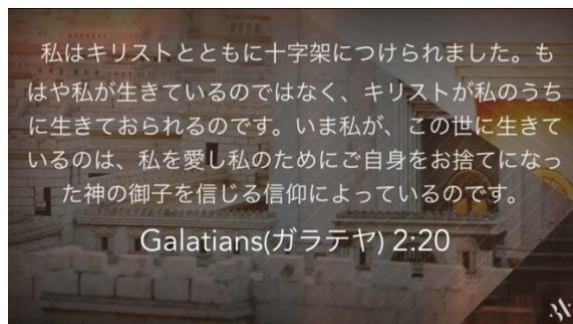
それから、面白いと思いませんか？

彼らは、タンムズを拝んでいました。死んで、よみがえった神々です。

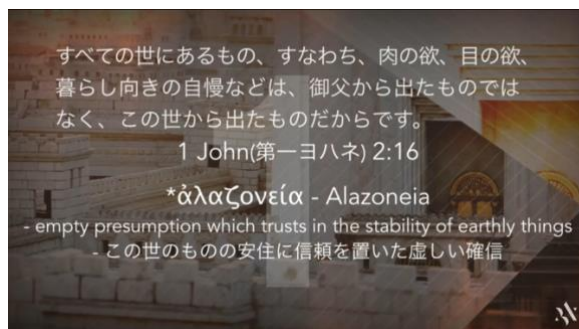
しかし、ピリピ人への手紙 3 章 10 節には、イエスのいのちと死とよみがえりについて書かれています。サタンは、常に真似をします。常にです！

本当は、義の太陽を拝まなければならないのに、太陽を拝み、

本当は、生まれて生き、そして死に、よみがえった方を拝むべきなのに、間違っただけを拝みます。驚きです。



これこそが、私たちが持つべきいのちです！



興味深いのが、「暮らし向きの自慢」という言葉は、「Alazoneia」、この世のものの安住に信頼を置いた、虚しい確信です。

「あなたがたは、そんなものを信頼する必要はない。わたしを信頼しなさい。」

と神は言われます。

それから、ご覧の通り、

神の栄光が神殿から離れたことは、“ケバルの川のほとりで、捕囚の民とともにいた”（エゼキエル 1:1）預言者エゼキエルによって、厳粛に述べられている。徐々に神の栄光は、その家から離れて行った。神が、その民の間から離れることをためらう様子は、預言者が見、語っている。栄光は、最も聖なる場所を離れ、“神殿の敷居に向かった”（エゼキエル 9:3、10:4）、それから、“神殿の敷居から出て行った”。そして、“ケルビムの上にとどまった…主の宮の東の門の入り口で立ち止まる”（エゼキエル 10:18, 19）。そして、“主の栄光はその町の真ん中から上って、町の東にある山の上にとどまった”（エゼキエル 11:23）時に、神の栄光が最後に目撃されている。預言者は、始まりの章をこのように美しく記録している。“その王座に似たもののはるか上には、人間の姿に似たものがあった”。そして、彼の守りは、“主の栄光のように見えた（エゼキエル 1:26~28）”

驚きです。

神が、あなたと共におられない時、しかもあなたは、神がともにおられると思っているその時、災いや破壊が襲い、エルサレムは完全に略奪、崩壊され、神殿は第二歴代誌 36 章で予測、記録された通り、紀元前 586 年に崩壊しました。皆さんの旧約聖書は、マラキ書が最後ですが、申し訳ありませんが、私たちが違います。（書記注：巻末に「ヘブライ語と日本語の聖書の配列順と分類の比較」を記載。）

本当の順序は、第二歴代誌が最後の書です。いくつかお教えすることも出来ませんが、ともかく、第二歴代誌 35 章 15~19 節は、神殿の崩壊について語っています。





デイヴィッド・ロバーツ（英）画「エルサレムの包囲と破壊」1850年制作

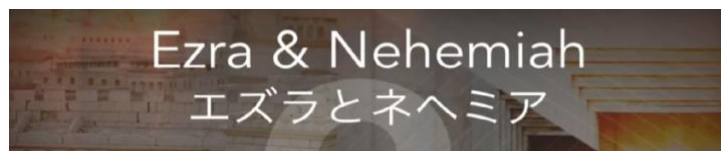
そして彼らは、70年間遠く離されていました。ダニエルは、70年の終わりを期待しました。神は、それよりもはるかに大きな事を明かされるとは、思ってもいませんでしたが。

それから彼らは戻り、そして、王に、戻って都と神殿を再建したいと願ったのは、誰でしたか？

——ネヘミヤです！



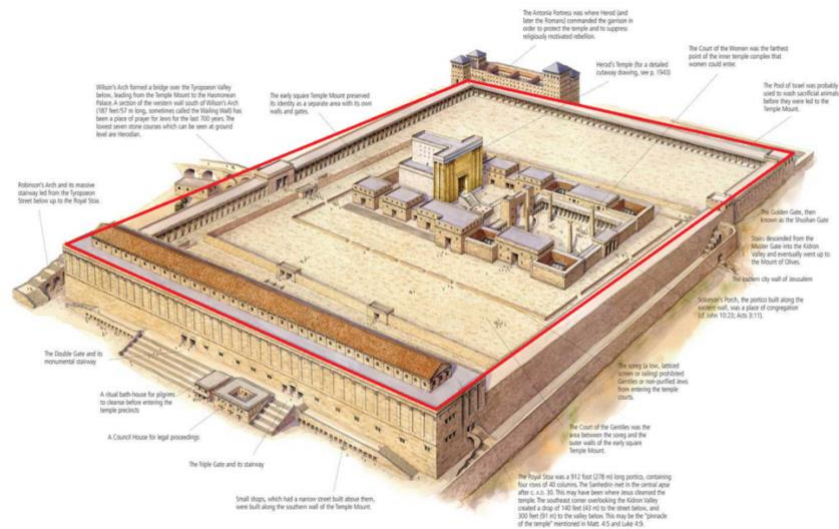
そして、第二神殿が出来上がり、エズラ記6章13~15節は、その第二神殿の建設について語っています。後ろに「2」があります。そして皆さん、エズラとネヘミヤは最初にあるものを建設しました。



それから紀元前2世紀、ハスモン朝、マカバイが登場します。彼らはそれをさらに良くしますが、しかしそれはヘロデ大王までの話です。



そして、紀元前1世紀、彼らは、その素晴らしい場所をさらに変えます。当時、世界に与えられている美が10あるとすれば、そのうちの9つがエルサレムにある、と言われていました。それはかなりのものでした。こちらが、ヘロデ神殿です。



### ヘロデ神殿

これは、ただの神殿ではありません。ヘロデは、ある事を理解していました。

神の商売に勝るものはない。

これらの人々から、大儲けが出来る。

神殿さえ素晴らしくしておけば良い。

あとは、北へ東へ西へ南へ、全てを拡大して、十分な場所を作ろう。

礼拝のためだけでなく、買い物のためにも。ショッピング～♪

ご覧になっている、この長く赤い屋根の建物全体が、巨大ショッピングモールだったのです！これは、「ロイヤル・ポルチコ」と呼ばれ、柱廊が物凄い。そこで両替が行なわれ、何でも欲しいものが買えました。神殿に来る人たちは、こんな感じで、犠牲の動物をささげ、義務を果たしておいてから、ショッピングに走りまわりました。

これでヘロデは大儲けをしました。

そして、神は、そこにおられませんでした。

唯一、神が戻って来られたのは、小さな赤ん坊が、捧げられるために来た時でした。

シメオンは、「この方だ！」と言いました。「この子が、

### 32 異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です。」

(ルカ 2:32)

と。ルカの福音書の2章22～52節まで、30節にわたって、神がどのように違う形で訪れたかを語っています。赤ん坊の姿でした。驚きです。ヨハネ4章20～24節。

20 わたしたちの先祖は、この山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムだと言われます。」

21 イエスは彼女に言われた。「わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが父を礼拝するのは、この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ます。」

22 救いはユダヤ人から出るので、わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。

23 しかし、真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼



拝者として求めておられるからです。

24 神は霊ですから、神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。

(ヨハネ 4:20~24)

イエスは、サマリヤの女に言われました。

「そうです。メシアは、イスラエルの中から出なければならない。告げられている通り、救いはユダヤ人のものだ。しかし、神殿に信頼をおいてはいけません。ここも、あちらも、エルサレムさえも信頼してはいけません。神は、霊なのだ。」

イエスは実際、「神はあそこにはいない」と言っておられるのです。

これは、人の姿を取られた神による、力強い宣言です。

イエスは将来の事を言っておられるわけではありません。御言葉を見てください。

23 「…時が来ます。今がその時です。」

(ヨハネ 4:23 抜粋)

第一コリント 3 章 16 節を見てみましょう。

16 あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか。

(第一コリント 3:16)

考えてみてください。ユダヤ人がこんなことを聞いたら？

神殿があるのに？物凄い冒涇ですよ。

彼らは、まだ神の家に行っており、神は、家にはいられない。

マタイ 24 章 1~2 節。

1 イエスが宮を出て行かれるとき、弟子たちが近寄って来て、イエスに宮の建物をさし示した。

2 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「このすべての物に目をみはっているのでしょうか。まことに、あなたがたに告げます。ここでは、石がくずされずに、積み残されたまま残ることは決してありません。」

(マタイ 24:1~2)

イエスは、建物を見ておられましたが、彼にとってそれは、人の手によって建てられたように、人の手によって崩される、石の山でしかありませんでした。



ヘロデ通り

皆さんがイスラエルを訪れると、これはヘロデ通りで、ヘロデの時代のもので、そして、あの山積みになった石は、西暦 70 年にエルサレムを滅ぼした、ローマ兵によって崩された、神殿の丘の石そのものです。

まさに、イエスが言われた通りです！

「いや、彼が真実を言ったとは、私は信じられないよ。」

信じる必要はありません。ただ、行ってご自分の目で確かめてください。

「へえ。興味深いね。」

そうです！石は、一つとして、神殿に残っていません。

他の多くのことでは、石が見つかっていますが、こちらは一つもありません。驚きです！そして、一つも石が残っていないため、今は非常に多くの偽者たちが

「神殿はそこになかったのだ。」

などと言っています。

地球は平らで、唐突に全てがオッケー。

NASA は写真を偽造しています。地球が平らだと？

平らなら、どうして私がここを出て飛行機で飛ぶと、また同じ場所に戻って来るのですか？

神殿があそこになかったのなら、なぜ、全ての石が他の場所でなく、あそこに投げ出されているのですか？



現在の神殿の丘

これが今日の神殿の丘です。こんにちは、そこは、このようになっています。

岩のドームが見えますね。

ある事をお話しましょう。

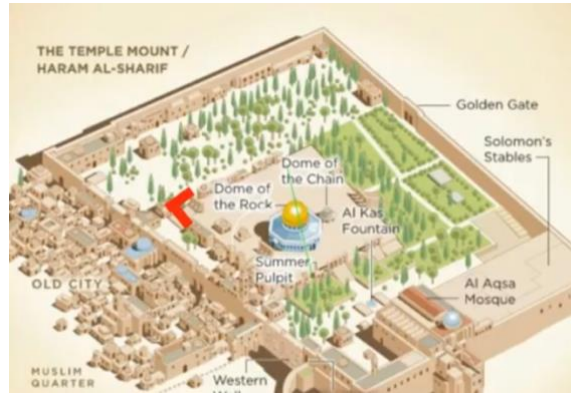
1980年代、神殿の丘のムスリムたちは、——現在、ムスリムたちが神殿の丘を完全に支配しています——岩のドームは、イスラムにとって世界第三聖地のため、イスラエルはエルサレムを支配していますが、神殿の丘の土地は、宗教的な権威においては、彼らの支配下に残しておきました。そして、ムスリムたちが自治区に来て、言いました。

「ホースが破裂したので、自治体に来て修理してください。」

我々は、水道工事の道具を持った配管工たちを送りました。

そして我々は、そこであるものを発見したのです。

水によって、そこがどんどん綺麗になって行き、古代の角を発見しました。



赤い部分が発見されたソロモンの擁壁の角

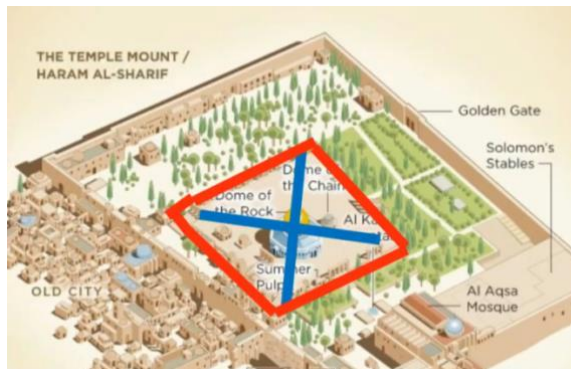
見えますか？そして、その年代を調べてみると、それはソロモンの時代のものでした。そこで私たちが気付いたのは、神殿の丘の土台が正方形であることは私たちも知っていますから、角を発見したのなら、正確に分かるということです。それから寸法は、ユダヤ教のタルムードに書かれていますから、250 ヤード×250 ヤード。私たちは、はっきりと知ることが出来ます。



タルムードによって割り出されたソロモンの擁壁

ですから、ただ、こちらとこちら、こちらとこちらを結んで、対角線を引けば、神殿が建っていた場所が正確に分かるのです。

それはどこか？岩のドームのある所です！



まさに、岩のドームのところに神殿があった！（青い対角線の交点）

地球は平らで、ダビデの町に神殿があったと信じておられる皆さんが、恐らくご存知ないのは、1500 年前、ユダヤ人はアブの月の第9日目に嘆く時、嘆きの壁がなかったために、彼らは実際に神殿が建っていた場所に行ったのです。彼らは、かつて至聖所が建っていた岩の上において、そこで嘆き悲しんだのです。

そこへ、西暦 638 年、ムスリムが来て、

「ここで何をしているんだ？」

「かつては、ここに神殿が建っていたんだ。」

「そうなの。へえ…興味深いな。」

「そうか…あそこに、彼らの神殿が建っていたんだ。」

「よし。」

ドームの反対側には、聖墳墓教会が建っていました。

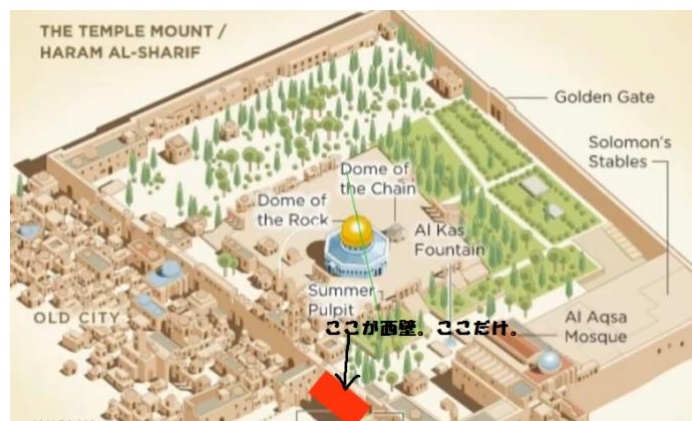
そこでムスリムたちは、あそこのクリスチャンたちと釣り合う何かが必要だと考え、彼らは、まさにユダヤ人たちが神殿の崩壊を嘆いていたあの場所に、ドームを建てることを決めました。それが岩のドームと呼ばれているのは、岩の上に建っているドームだからですよ！その岩というのは岩盤で、その岩盤の内側に、私たちは興味深い、岩盤の切込みを発見しました。それが、契約の箱のサイズに、ぴったりと当てはまるのです！聖書には、契約の箱は内側に置かなければならないとあります（書記注：第一列王記 6:19 参照。）。

ということで、面白いと思いませんか？このように、ソロモンの神殿が赤、ヘロデの神殿の丘は緑、先ほども言ったように、ヘロデは長さも幅も、何もかも大きく造りました。



ソロモンの神殿の大きさ（赤）とヘロデの神殿の大きさ（緑）

そして、現在、ユダヤ人はどこで礼拝をしているでしょう？こちらです。



西壁（嘆きの壁）

あれが嘆きの壁です。あの、小さな部分が見えますか？あれは神殿の一部でしょうか？

いいえ。ソロモンの時代のものですらありません。こんにちのユダヤ人たちは、ヘロデの時代の擁壁の一部で嘆き、メモを差し込み、そこを神聖化しているのです。ヘロデがああ擁壁を建てた時は、いつか、誰かがそこにキスをし、たくさんものをそこに差し込むなど、想像もしていませんでした。今はファックスサービスがあって、皆さんも祈りを書いて、



あちらにファックスすれば、彼らが走って行って、あなたの代わりに差し込んでくれるのです。しかもカメラがあって、彼らが確かにそれを行なったか、確認できるようになっています。お代は PayPal でお支払い可能です。忘れちゃいけません(笑)。すごいですね。

ということで、こんにちは、私たちはあそこに立っています。私たちに残されたのは、あれだけです。岩のドームが建っていて、嘆きの壁はあそこにあります。そして、ユダヤ人たちは、何か別のものを期待しています。

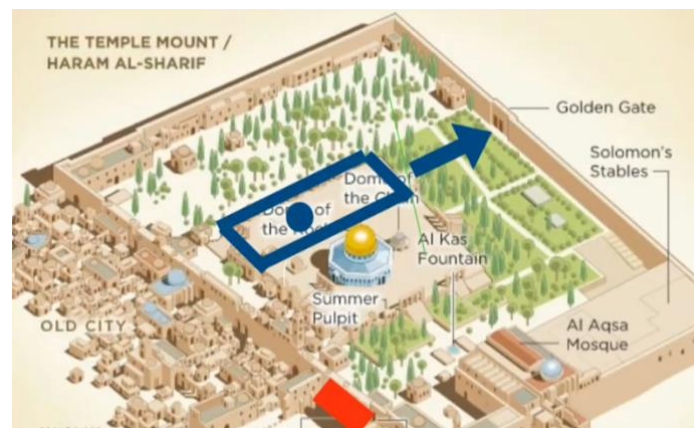
エルサレムには、神殿研究所があって、第三神殿建設工事の用意をしています。すでに祭司の訓練が行われていて、動物のほふり方をすでに訓練しています。すでに、非常に多くの物の複製版が作られています。

彼らは、第三神殿が欲しいのです。ただ、彼らが理解していないのは、ダニエル書 9 章、第二テサロニケ 2 章によれば、第三神殿は確かに建設されますが、そこに入り込み、自らを神であると宣言するのは、誰でしょうか？



(会場の聴衆から) 反キリスト。

その通りです。どのようにして、それが起こるのか？その前に、第三神殿を建てる場所はあるのか？こちらをご覧ください。



次の神殿が建つ可能性が高い位置

岩のドームの北には、空いた土台があって、それは黄金の門（東門）と完璧に並びます。それからそこには、岩盤の一片があって、イスラエル人ラビの何人かは「そこが至聖所である」と主張しています。彼は「そもそもそこに第二神殿があったのだ」と信じています。そして、すでに彼は「そこに空いた場所がある」と人々を説得し始めています。

私は、彼は間違いであると信じています。私は、彼は正しいと信じています。

言い換えれば、事実からすれば、彼は間違っています。しかし、岩のドームを破壊せずに、第三神殿を建てたいなら、彼は選択肢を差し出しています。

もしかしたら、そのために、聖書には「外に庭で忌むべきことが行なわれる」と書かれているのかも知れません。たぶん...

私は、反キリストは、「さあ、手を繋いでクンバイヤを歌おう！」というようなタイプの世界指導者ではないか、と思っています。

「君たちはここで礼拝しなさい。彼らはあちらで礼拝する。これですべてが上手く行く。」

興味深い事に、いろいろな人が私に言います。

「アミールさん、反キリストは、契約を“確認”するのではなかったですか？」

そこで私は、

「あなたにヘブル語を教えて差し上げたい！」

と答えます。

というのも、ここは、どの契約に関しても「確認する」という言葉ではありませんから。ここでの言葉は「増し加える」です。

何か、和平協議のようなものを、さらに目を見張るものにするのです。

考えてみてください。反キリストは、戦争の人ではなく、平和の人です。



ダニエルは、平和の人について告げています。彼は、イスラエルを破壊するためにやって来るのではありません。彼は、平和をもって支配するためにやって来るのです。

「さあ。あなたがたは神殿を建てても良いですよ。」

皆さん、一つ言っておきますが、誰もが「世紀の協議」を待っています。

トランプ大統領が間もなく発表しようとしている、和平協議を。

そして、多くの牧師達が

「彼は、エルサレムを渡してしまうのではないかと、私は危惧している」

と言っているのも知っています。

なぜ、そんなに危惧するのですか？

エルサレムがイスラエルの首都であると認識した大統領は、アメリカ史上、彼だけです。

エルサレムがイスラエルの首都であるという、トランプの宣言は、聖書預言によって必要な事でした。なぜか？

それは、反キリストは「これは、あなたがたの首都だ」とは言いません。

これはもう、すでに決定したことですから。

彼は、それを増し加えます。彼は、すでに知られていることを、目を見張るようなものにします。では、何を増し加えるのでしょうか。

増し加えるとは、

「エルサレムは、あなたがたのものだ。しかし私はあなたがたに…神殿を建てさせよう。」

これが、反キリストが与える平和と、今日もたらされる、あらゆる和平協議との違いです。今は、エルサレムだけですが、その時になれば、神殿です！神殿が全てです。





トランプが差し出そうとしている「究極の平和」は、“その”究極の平和でないことは確実です。それは、反キリストが、本物のトロフィーを与えるための準備における、ほんの第一歩に過ぎません。



エルサレムが審議されます。

そして皆さん、理解しなければなりません。現在、誰もがそれについて語っていますから。信じがたいかも知れませんが、第三神殿は、そう長くは建っていません。

何という無駄遣いでしょうか！

彼らは何百億ドルというお金をつぎ込んでそれを建て、それが恐らく3年半以内になくなってしまうのです。

悲しすぎませんか？

なぜでしょう？

それは、イエスが戻って来られ、彼の足がオリーブ山に降り立つ、とゼカリヤ書14章にある通り、オリーブ山が裂けるのです。

皆さん、言わせていただきますが、オリーブ山が裂けると、全てが裂けるのです。

それから言うておきますが、今日の神殿の丘の下、今日のイスラムの東門の下には、イエスの時代の東門があります。私たちはそれを発見したのです。ムスリムたちがコンクリートを入れ、我々はそれを掘り、彼らはまたコンクリートを入れて、真実を抹殺しました。しかし聖書には、

11 まことは地から生えいで、…

(詩篇 85:11)

とあります。興味深くないですか？

地震が起こると、詩篇24篇が成就します。

7 門よ。おまえたちのかしらを上げよ。永遠の戸よ。上がれ。栄光の王が入って来られる。

(詩篇 24:7)

皆さん、聖書には、彼らが毎日読んでいる書、哀歌2章に次のように書かれています。

9 その（エルサレムの）城門も地にめり込み、…

(哀歌 2:9a)

あそこが崩壊された時、全てが瓦礫の下にめり込みました。それがここでは、門が上に上がります。そしてまた、別の神

殿が建てられます。

「ちょっと待って！分からなくなってきた。いくつだって？」

初めは幕屋、それから第一番目の実際の神殿がソロモン神殿です。

第二神殿は三段階あって、エズラ、ネヘミヤ、ハスモン朝の時代、それからヘロデの時代で、それが西暦 70 年に崩壊されました。

次に反キリストが、第三神殿の建設を認めますが、その中間で彼は中に入り込んで宣言します。

「ここは私の場所だ。私が神である。私を拝みなさい。」

ユダヤ人は言います。

「いいえ。あなたは違う。」

彼は言います。

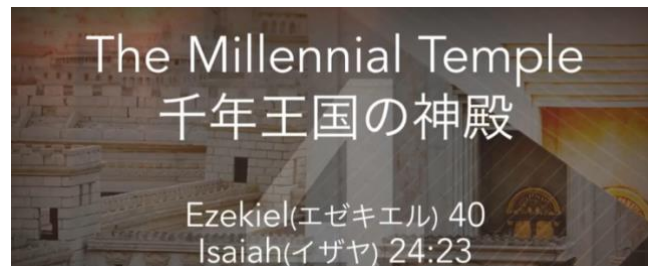
「私が神だ！」

「いいえ。違う！」

「私が神だ！」

そこで、ユダヤ人たちは逃げ、反キリストは彼らを追いかけます。

その時、イエスが戻って来られ、イスラエルの全家が救われて、そして千年王国が始まります。



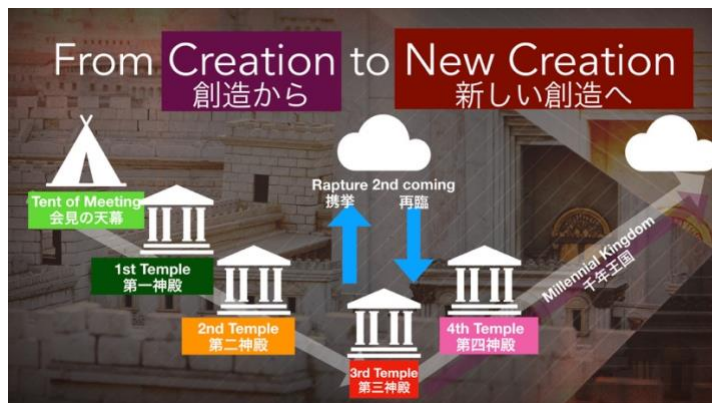
それから信じがたいかも知れませんが、聖書には、エゼキエル 40 章、イザヤ書 24 章に、また神殿が出来ると書かれています。第四神殿です。ずっと大きい。

再び、動物がささげられますが、それはもはや、贖いや罪の赦しのためではなく、すでにイエスが行われたことを象徴して行われるのです。

非常に興味深いですね。千年王国には、第四神殿が存在します。

では、まとめて見てみましょう。もう少しで終わりです。

こちらをご覧ください。



会見の天幕から始まって、第一神殿、第二神殿。下降していくのは、どんどん悪くなっていくからです。第二神殿。そして第三神殿。私が信じるに、私たちはそれを見る前に携拳され、それが破壊される時、私たちは、イエスと共に戻って来ます。ハレルヤ！

「まあ、…それは…」(笑)

そうですか。ありがとうございます。(会場拍手)

それから第四神殿。

私たちは、イエスとともにいて、彼と共に統治しています。

そして、千年の後。

ご覧の通り、神がエデンの園に来られた時、神殿はありませんでした。

ただ、神だけ。神殿は必要ありませんでした。

それが、神が全てを新しくされる時、新しいエルサレム、新しい天、新しい地、そしてなんと、神殿があるのでしょうか？

黙示録 21 章 22 節には、こうあります。

**22 私は、この都の中に神殿を見なかった。それは、万物の支配者である、神であられる主と、小羊とが都の神殿だからである。**

(黙示録 21:22)

アーメン？

(会場一同) アーメン！

これを、私たちは楽しみにしているのです。

そこで今夜、皆さんにお尋ねします。

これで終わりですから。

神は、あなたの中に住みたいと願っておられます。

しかし、神は紳士です。神は、あなたが許さない限り、入っては来られません。

**20 見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開ける“なら”、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。**

(黙示録 3:20)

今夜、皆さんはここに座って、聞かれました。神殿について、これから先の数年間に何度も耳にするようになり、私たち自身は、私が信じているのは、もしあなたが本当の信者なら、第三神殿が建つを見ることはないでしょう。しかし確実に、その破壊されるのを見ることになります。

しかし、あなたが信者ではないのなら、あなたが激しく欺かれる日がやって来ます。

神は、私たちの間に住むことを願っておられます。

そして神は、あなたの神になりたいと願っておられます。

「それはそうだけど。私は罪びとです。」

その通り。あなたは罪びとです。

だからそのために、神が解決策を与えられたのです。

だからイエスが、あなたの罪のために死なれたのです。

イエスが死なれたのに、あなたはそれを信じもしないとは、なんともったいない！

イエスが、2,000年前に死なれたというのは、事実です。

だれもが、歴史家さえも言います。フラウィウス・ヨセフスも言っています。

しかし、永遠のいのちを持つのは、唯一、イエスを信じた人だけです。

イエスの、何を信じるのか？

① それは、まず一つに、自分が罪びとであると信じる。

② 次に、悔い改めなければならないこと、

③ その次に、神にあなたのことをこれ以上愛してもらうために、あなたに出来ることはこの世の中には何もありません。神はすでに、そのひとり子をお与えになったほどに、あなたのことを愛しておられるのです。そして、イエスがメシアである、ということだけでなく、あなたの個人の主、救い主であり、あなたの船のキャプテンであると信じて、受け入れるのです。

そして、今日から後、イエスに、あなたを導いてもらうのです。

イエスが、サマリヤの女に、

#### 24 …神を礼拝する者は、霊とまことによって礼拝する

(ヨハネ 4:24)

と言われた時、これを意味しておられたのです。

神は、霊です。そして神は、あなたの中に住みたいと望んでおられる。

イエスは、入りたいと願っておられます。

聖霊が、あなたの中に入るのは、唯一あなたが、イエスをあなたの主、救い主として受け入れ、聖霊をあなたの中に招いた時だけです。

ですから今夜、目を閉じて、頭を下に下げてください。

お祈りで、締めくくります。

今夜、何百、何千という数の人が、たった今、暗やみの中で人の造った神殿の崩壊を嘆き、泣いていることを聞きました。

そして、神は霊であられることを、私たちは知っています。

その神が、今夜、あなたに願っておられます。

目を閉じ、頭を下げたままで、今夜ここにいるあなたが、もし、真の、上からの誕生を経験していないなら、あなたが聖霊に導かれる、真の人生を経験していないなら、

今夜、全員が頭を下げ、目を閉じた状態で、もし、それがあなたで、そしてあなたがそれを認め、祈って欲しいと思われるなら、誰も見ていませんから、私に見えるように手を挙げてください。手が見えます。他にいらっしゃいますか？手が見えます…。

お父様、今夜、私たちはただ歴史について語るためにここにいるわけではありません。

ただ、将来について語るためにここにいるのでもありません。

私たちは、ただの儀式や伝統について語り合うためにここにいるのでもありません。

私にここにいるのは、あなたを知りたいからです。

モーセが言ったように、あなたご自身が導いてくださらないのであれば、私たちは動きたくありません。

今夜、人々がイエスを自分の救い主とすることの必要を認識しますように。

今夜、特別な形で、彼らに訪れてください。

彼らに、あなたの愛と情熱を示してください。  
彼らを、聖霊で満たしてください。  
彼らが、上からの誕生を経験しますように。  
そして彼らが、救いの喜びに満たされて、家に帰りますように。  
自分が新生した事、自分が御霊に満たされていることを、彼らが知りますように。  
そして彼らが、洗礼を受けたいと願いますように。  
彼らが残りの人生を、あなたに仕えたいと願いますように。  
残りの日は、それほど多くありません。  
私たちは、間もなくここから連れ去られることを、私たちの周辺のあらゆることを通して見せてくださり、感謝します。  
中東の全て、世界中の全てが、イエスがオリーブ山で弟子たちに語られたこと、そのままです。  
そしてイエスは、「これらのことが起こり始めたなら、からだをまっすぐにし、頭を上へ上げなさい。贖いが近づいたので  
す。」と言われました。  
この、悪い世からの体の贖いです。  
お父様、あなたは、私たちを孤児のまま残しては置かれず、来て、連れて行ってくださるという、あなたの約束に感謝  
します。  
あなたのおられる所に、私たちをもおらせるためです。  
お父様、感謝します。  
私たちは地上ではなく、空中でイエスの御顔を見ます。  
私たちは、この地上に戻って来る時、彼の後ろで馬に乗り、イエスの背中を見ます。  
どうか、私たちが、自分の救い主として、イエスのことをさらによく知ることが出来ますように。  
このお祈りを、他にはない御名、イスラエルの聖なる方、王の王、主の主、ユダ族の獅子、神の小羊、平和の君、インマ  
ヌエル、私たちの救いの御名、あなたの救いの御名、イエシュア、イエスの御名によってお捧げします。  
全て、神の民は言いましょ。う。  
アーメン。  
アーメン！

---

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

#### 【写真出典一覧】

イタリア・ローマにあるティトゥス凱旋門のレリーフ : Wikipedia「エルサレム攻囲戦 (70年)」

アピス : Wikipedia「アピス」ルーブル美術館蔵 エジプト第30代王朝時代のもの

きゅうり畑のかかし！？ : Eriko 画

エルサレムの包囲と破壊 : デイヴィッド・ロバーツ (英) 画 1850年制作

ヘロデ神殿 : <http://mikereport.files.wordpress.com/2014/04/temple-mount2.png>

ヘロデ通り : Behold Israel Israel Unveiled Vol.1 Herodian Street

現在の神殿の丘 : What is Beneath the Temple Mount? Smithsonian.com April. 2011

【補足：ヘブライ語と日本語の聖書の配列順と分類の比較】

ヘブライ語と日本語の聖書の配列順と分類の比較

ヘブライ語	日本語
トーラ（律法） 1 創世記 2 出エジプト記 3 レビ記 4 民数記 5 申命記	モーセ五書 1 創世記 2 出エジプト記 3 レビ記 4 民数記 5 申命記
ナビーム（預言書） 前預言書 6 ヨシュア 7 士師記（+ルツ記） 8 サムエル記（全巻） 9 列王記（全巻） 後預言書 10 イザヤ書 11 エレミヤ書（+哀歌） 12 エゼキエル書 13 十二預言書	歴史書 6 ヨシュア 7 士師記 8 ルツ記 9 サムエル記第一 10 サムエル記第二 11 列王記第一 12 列王記第二 13 歴代誌第一 14 歴代誌第二 15 エズラ記 16 ネヘミヤ記 17 エステル記
ケトビーム（詩書） 詩文書 14 詩篇 15 ヨブ記 16 箴言 メギロース（巻物） 17 雅歌 18 伝道者の書 19 エステル記 歴史書 20 ダニエル書 21 エズラ・ネヘミヤ記 22 歴代誌（全巻）	詩文書 18 ヨブ記 19 詩篇 20 箴言 21 伝道者の書 22 雅歌
基本的なヘブライ語の聖書の配列はこのようになっていますが、現在発刊されているヘブライ語聖書は、ルツ記を箴言の後に、また哀歌を伝道者の書の後においています。これらはどちらもメギロースのなかに含まれると考えられます。	預言書 大預言書 23 イザヤ書 24 エレミヤ書 25 哀歌 26 エゼキエル書 27 ダニエル書 小預言書 28 ホセア書 29 ヨエル書 30 アモス書 31 オバデヤ書 32 ヨナ書 33 ミカ書 34 ナホム書 35 ハバクク書 36 ゼバニヤ書 37 ハガイ書 38 ゼカリヤ書 39 マラキ書

（日本聖書学院「旧約聖書概観Ⅲ」より抜粋）